

はじめに	i
------	---

第1章 外国為替取引

1. 外国為替とは	1
1.1 外国為替の定義	1
1.2 外国為替と内国為替	2
1.3 外国為替取引の諸形態	4
2. 外国為替相場の基礎	8
2.1 外国為替相場とは	8
2.2 外国為替相場の種類	8
2.3 為替相場の建て方	13
3. 先物為替	16
3.1 先物為替取引の機能と形態	16
3.2 先物為替相場と金利	18
3.3 先物相場の計算と表示	19
3.4 先物為替の受け渡し	21
3.5 カバー付き金利平価	22
4. 為替相場決定の理論	24
4.1 素朴な3つの学説	24
4.2 長期理論：購買力平価説	25
4.3 短期・中期理論	29
5. 外国為替市場の仕組	38
5.1 外国為替市場の参加者	38
5.2 銀行間（インターバンク）市場	39
5.3 世界の主要外国為替市場	40
5.4 東京為替市場の発展と現状	42
5.5 世界為替市場の動向	43
6. 為替リスクと為替ポジション操作	46
6.1 為替リスクとエクスポージャー	46

6.2 為替持高	47
6.3 銀行の為替・資金操作	48
7. 通貨当局の市場介入と外貨準備	52
7.1 為替相場の変動と市場介入	52
7.2 外貨準備	56
8. 外国為替と国際貿易	57
8.1 輸出取引と輸出金融	57
8.2 輸入取引と輸入金融	59
8.3 信用状 (letter of credit)	60
8.4 外国為替手形	62
8.5 船積書類	64
9. 外国為替・貿易金融の技術革新	65
9.1 外為決済リスクの回避	65
9.2 スイフト	65
9.3 貿易金融での技術革新	66
第2章 国際通貨システムの形成と変遷	
1. 国際通貨システムと国際通貨	69
2. 金本位制度の歴史	70
2.1 金本位制度の形成	70
2.2 国際金本位制度のメカニズム (ゲームのルール)	71
2.3 金本位制度の変遷	73
3. ブレトンウッズ体制	74
3.1 ブレトンウッズ体制の成立	74
3.2 ブレトンウッズ体制の特徴	75
3.3 ブレトンウッズ体制下の状況	77
3.4 SDR (IMF 特別引出権) の創設	79
4. ブレトンウッズ体制の崩壊	80
4.1 崩壊の経緯——金の二重価格制	80

4.2 ニクソン・ショックとスミソニアン合意	81
4.3 キングストン合意と変動相場制	83
5. プラザ合意とその後の国際協調体制	84
5.1 プラザ合意まで	84
5.2 プラザ合意とその後の推移	85
6. 欧州通貨制度と新通貨ユーロの誕生	86
6.1 マーストリヒト条約の成立まで	86
6.2 マーストリヒト条約の成立	87
6.3 欧州単一通貨ユーロの国際基軸通貨としての可能性	88
7. グローバリゼーションの進展と金融システム不安	90
7.1 1980年代後半からの世界の金融システム不安の動向	90
7.2 ブラックマンデー	91
7.3 欧州通貨危機	92
7.4 アジア通貨危機	92
7.5 ロシア通貨・ブラジル通貨危機とLTCMの破綻	93
7.6 ITバブルの崩壊	94
7.7 サブプライムローンを発端とする世界金融恐慌	95
7.8 通貨危機・金融不安の総括	97

第3章 国際収支

1. 国際収支とは	101
1.1 国際収支と外国為替の関係	101
1.2 国際収支の意味	102
1.3 国際収支表	103
1.4 国際収支の内訳	104
2. わが国の国際収支構造と国際貸借	109
2.1 戦後の国際収支の推移と特徴	109
2.2 わが国の国際貸借	110
3. 経常収支とマクロ・バランス	112

3.1	マクロ・バランスから見た経常収支	112
3.2	貯蓄・投資バランス	113
3.3	貯蓄・投資バランスをめぐる問題	113
4.	国際収支の調整と為替相場	115
4.1	国際収支調整の限界	115
4.2	為替相場の変動と貿易収支	117
4.3	為替政策のトリレンマ	119

第4章 国際金融市場

1.	国際金融取引と市場	121
1.1	国際金融取引	121
1.2	国際金融市場	121
1.3	金融市場・資本市場・銀行貸付市場・証券市場	122
1.4	各国市場とユーロ・カレンシー市場	122
1.5	国際金融市場の条件	123
1.6	国際金融と技術革新	123
2.	国際金融市場の発展	124
2.1	第2次世界大戦まで	124
2.2	ユーロドル市場の誕生	124
2.3	ユーロ・カレンシー市場の発展と累積債務問題	124
3.	国際金融市場の最近の動向	125
3.1	国際金融市場の規模	126
3.2	国際銀行貸付市場	128
3.3	国際証券市場	130
3.4	グロスとネットの国際資本移動	136
4.	本邦対外資本取引と国際金融市場	137
4.1	世界最大の債権国日本	137
4.2	ジャパン・マネーの拡大と低迷	138
4.3	金融市場の空洞化	141

4.4	日本版金融ビッグバンと新外為法	141
5.	主要金融市場の現状と展望	142
5.1	ニューヨーク市場	143
5.2	ロンドン市場	144
5.3	ユーロ圏市場	145
5.4	スイス市場	147
5.5	アジア金融・資本市場	148
5.6	オフショア市場 (offshore market)	151
5.7	新興市場 (エマージングマーケット)	154
6.	途上国累積債務問題	155
6.1	累積債務問題の国際金融史上の位置づけ	155
6.2	累積債務問題の意味	156
6.3	累積債務問題の実情	157
6.4	累積債務問題の要因 (借手側の事情)	159
6.5	累積債務問題の要因 (貸手側の事情)	160
6.6	累積債務問題の解決策	161

第5章 国際金融取引の諸形態

1.	国際証券市場における株式の発行	167
1.1	公募発行の仕組	167
1.2	発行場所の選択	168
1.3	預託証券	169
1.4	国際的な株式発行の利点	170
2.	国際証券市場における債券の発行	170
2.1	国際債市場での債券発行	171
2.2	借入れファシリティによる資金調達	174
2.3	各国証券市場での外債発行	175
2.4	グローバル債 (Global bonds) 市場	178
2.5	国際債市場での本邦居住者の債券発行	178

3. シンジケート・ローン (Syndicated Loan)	179
3.1 シンジケート・ローンの意味	179
3.2 シンジケート・ローンの特徴	181
3.3 シンジケート・ローンの仕組と組成の手順	183
3.4 シンジケート・ローンの変遷過程	186
4. プロジェクト・ファイナンス (Project Finance) とリース (Lease)	189
4.1 プロジェクト・ファイナンスと国際リース出現の背景	189
4.2 プロジェクト・ファイナンスの意味	191
4.3 フィージビリティ・スタディ (Feasibility Study)	192
4.4 プロジェクト・ファイナンスのメリット	193
4.5 国際リース (クロスボーダー・リース Cross-border Lease) ..	194
4.6 国際リースの仕組	194
5. 金融派生商品 (デリバティブ)	197
5.1 為替・金利リスクとデリバティブ	197
5.2 金融派生商品 (デリバティブ) とは	197
5.3 金融派生商品取引の拡大	198
5.4 わが国における金融派生商品取引	201
5.5 先渡し取引と先物取引	201
5.6 国際金融取引と先渡し/先物契約	203
5.7 スワップ取引 (Swaps)	206
5.8 オプション取引 (Options)	210
6. 信用リスク管理の新潮流	216
6.1 クレジット・デリバティブ	216
6.2 ストラクチャード・ファイナンス (仕組み金融)	218
7. 外国為替証拠金取引	220

第6章 国際投資

1. 直接投資	224
1.1 直接投資の意味	224
1.2 日本の対外直接投資の変遷	226
1.3 対外直接投資の年代別特徴	227
1.4 対外直接投資のパターン	228
1.5 日本の対内直接投資の変遷	231
1.6 海外進出企業の国際財務戦略の重要性増大	232
2. 国際証券投資	236
2.1 国際証券投資の基本	236
2.2 内外証券投資の状況	239
おわりに	244
索引	248